

## 一 般 健 康 診 断

### 受診者数の推移

平成21年度の一般健康診断等の受診団体数は、平成20年度と比較してやや減少したが、受診者数は約5千件増加、全国健康保険協会管掌健康保険生活習慣病予防健診は、受診団体数、受診者数ともにやや増加した。各検査項目（法定項目）についても、平成15年以降、全項目、省略項目ともに増加傾向が続いている。また、総合健診をもって定期健康診断とする件数は前年度に比べ約8千件増加した。

### 有所見率の推移

**胸部X線：**平成16年以降、「異常なし」の比率は女性の全ての年代で減少傾向が続いている。男性の若年者（～49歳）では平成19年度でやや増加したが、平成20年度以降は減少、横ばいである。「年1回定期観察」の比率は、平成20年度までは男女全ての年代で増加傾向が続いていたが、平成21年度はほぼ全年代で減少している。一方、「要精密検査」の比率は若年者では横ばいかやや増加、60歳以上では増加傾向である。

**血圧：**収縮期血圧、拡張期血圧の平均値は男女とも全年代で平成19年に引き続き低下した。「正常範囲」の比率については男性の全年代と女性の高齢者で増加傾向、それ以外の年代では横ばいであった。収縮期血圧90～99または拡張期血圧140～159の「要経過観察」の比率は男性高齢者で増加傾向である。収縮期血圧100～または拡張期血圧160～の「要注意」「要受診」の比率は男女とも、平成20年度以降、の全年代で減少している。

**BMI、腹囲：**平成20年度から導入された腹囲計測であるが、平成20年度、男性85cm以上は37.8%であったが、平成21年度は36.7%と1.1%減少した。女性は平成20年度、90cm以上は9.2%であったが平成21年度9.0%と微減であった。男性では85cm以上が最も多かったのは50歳代で45.1%（平成20年度46.3%）、女性では90cm以上が最も多かったのは60歳代で14.9%と平成20年度の11.6%から増加した。

**貧血検査：**男女とも「異常なし」の比率は平成20年度と比較し男性は全年代で減少傾向、女性は微減か横ばいとなった。「要二次検査」の比率は男女とも平成16年以降増加傾向にあったが、平成21年度は男女ともほぼ全ての年代で減少した。「要受診」の比率は男性全年代で増加傾向、逆に女性は60歳代を除き減少した。「要経過観察」の比率は平成17年以降、男性は横ばいであったが、平成21年度増加した。女性は平成20年度まで減少傾向が続いていたが、平成21年度は全年代で増加に転じた。

**肝機能：**「異常なし」の比率は平成15年以降、平成21年度まで男女の全年代で増加傾向が続いていたが、平成21年度は29歳以下の若年層を除いて減少した。逆に「要経過観察」の比率は平成17年以降平成21年度まで減少傾向が続いていたが、平成21年度は男女とも増加に転じた。「要二次検査」の比率は平成15年以降、男性の全年代で減少傾向が続き、平成20年度に30～50代で増加、女性は横ばいが続いていたが、平成21年度は男女とも減少した。「要受診」

の比率は男でほぼ横ばい、女性は減少に転じた。

**脂質検査：**「異常なし」の比率は平成20年は男性で20代が増加、それ以外は減少したが、平成21年度はほぼ横ばいであった。女性は平成20年度、全年代でやや増加したが平成21年度は男性同様横ばいであった。「要経過観察」の比率は平成20年度、男性の20歳代を除き男女ともすべての年代で減少したが平成21年度は男女とも増加に転じている。「要二次検査」の比率は男女ともすべての年代で減少か横ばいであった。「要受診」は平成20年度、女性の20歳代を除き、全ての年代で増加したが平成21年度は男女とも全年代で減少した。

**聴力検査：**「所見なし」の比率は平成17年以降、男性の40歳以上でやや増加傾向、男性39歳以下と女性の全年代で横ばいで、平成20年度は全て横ばいであったが平成21年度は男女とも50歳以上で増加している。「所見あり」の比率は男女とも50代以上で減少した。「1kHzのみ所見あり」「4kHzのみ所見あり」「1.4kHzとも所見あり」の比率は「所見あり」の比率とほぼ同様に推移している。

**心電図検査：**「異常なし」の比率は平成17年以降、男性の29歳以下と40歳以上、女性の59歳以下でやや減少傾向、男性30～39歳で横ばい、平成20年度は男性30代を除いて増加に転じたが平成21年度は男女とも50代以上でやや増加した。「ほぼ正常」の比率は平成16年度まで男性29歳以下を除いて減少傾向、平成17年以降、男女とも20代を除いて増加したが、平成21年度は男性29歳以下を除いて減少した。「要経過観察」の比率は平成14年以降、男性の30～39歳を除く男女の全年代で増加傾向、平成19年度は減少に転じ、平成20年度も男女ともほぼ全年代で減少したが、平成21年度は男女とも全ての年代で増加した。「要受診」の比率は平成15年以降男女とも全年代で減少傾向、平成20年度は男性30代、女性50代を除いて増加に転じたが平成21年度は女性50代を除いて減少した。

**糖：**「異常なし」の比率は平成20年度は男性は全体に横ばい、女性は全年代で増加したが、平成21年度は男女とも50代以上は増加、40代以下は横ばいかやや減少した。「ほぼ正常」の比率は、男性は20代を除き平成17年度から、女性は60代を除き平成19年度からやや増加、平成20年度は20代を除き増加したが、平成21年度は男性29歳以下を除いて全て減少した。「要経過観察」の比率は平成13年以降、男女とも増加傾向、平成19年度以降減少に転じたが、平成21年度は男女とも全ての年代で増加した。「要二次検査」の比率は男女とも平成17～18年にかけて減少傾向、平成19年度は女性の39歳以下、50～59歳を除いて増加に転じたが、平成20年度は男性50代、女性20代、60代を除いて減少、平成21年度も男女50代を除いて減少した。「要受診」の比率は平成15年以降男女とも全年代で減少傾向が続き、平成20年度は男性50代、60代、女性60代で増加したが、平成21年度は女性50代を除き全て減少した。

関係の集計表は115頁に掲載